

これまで「寺子屋」にお出でくださったみな様へ

…寺子屋を閉めるにあたって…

2011/12/23

岡田 京子

みな様、お元気でしょうか。

2006年初冬から始めた「寺子屋」は、6年の月日が過ぎました。この間私たちの意図をお汲み取りくださって、「現代座」まで度々足を運んでいただきましたこと心からお礼を申し上げます。

「寺子屋」は、元々音楽畑を歩いてきた私が、音楽をやっているだけでいいのだろうか、という疑いに取りつかれ、一緒に今の時代に何を求め、何を考えて生きているかを確認めたいという気持ちから始めた集まりでした。

まずは、「寺子屋」を支える裏方であるスタッフを募ることから始めました。そして講師は、私の人生の中で出会った三人の〈怪人〉、笠木透・木村快・安達元彦という、およそ現代の価値観とは全く別のところで生きてきた方たちにお願ひしました。これら三人の〈怪人〉を招いて、話を聞きたい、質問もしてみたい、みんなで話し合ってみたいという趣旨で、「寺子屋」を作ってきました。

6年目(2011年)は、私(岡田)が、笠木講師の詩の講座を引き継いで「つくり小屋」(作曲講座)と「うた小屋」(歌う講座)という2つの講座をつくり、講師を担当してきました。

「寺子屋」の6年間は大変充実した6年間だったと思います。しかし、身内の介護の問題やそれぞれの身体の問題、また寺子屋での出会いや活動をきっかけにした新たな活動など、「スタッフ」を取り巻く環境も変わり、さらに三人の講師を軸にした「寺子屋」も人が集まりにくくなってきた等、「寺子屋」を取り巻く環境も大きく変わり、今までのような「寺子屋」を維持していくことは難しくなりました。そこで、私(岡田)は、2011年末をもって「寺子屋」を閉じることを決断しました。

講師と寺子屋生のみな様の大きなご理解と、この間、惜しまない協力を注いでくれた11人のスタッフのみんな、現代座のみなさん、ほんとうにありがとうございました。みなさんに支えられてあっという間に、6年の月日が流れま

した。

「寺子屋」の活動で大切にしてきた「一緒に聞き 一緒に話し、一緒に歌い、一緒に食べた」一つ一つの体験は、今、2011年3月11日以後を生きる私たちに、「なにがしかの力」として蓄えられたと感じるこの頃です。

今回「寺子屋」を閉じて（寺子屋は「めだか大学付属寺子屋」というのが正式名称でした）「めだか大学」に戻ります。従って、これからは『めだか大学』の「つくり小屋」「うた小屋」として活動を続けて行きます。ちなみに、『めだか大学』に属する会は、他に、「にんじん畑」、「すみれ分教場」などがあります。

「寺子屋」で培われた種を、これからの仕事の中で、大事に育てていきたいと思っています。

● 「つくり小屋」「うた小屋」のこれからの方向をお伝えしておきますと、

☆ 「つくり小屋」 日本語にはたらく音の法則をよりどころとして、今の自分（現代の私たち）の表現を目指す作曲講座。

☆ 「うた小屋」 自分たちで作った歌をよりどころとしながら、新しい人間の絆を作っていく基地。

として活動を続けていきます。関心を持っていただける方がおられましたらどうぞご参加ください。お問い合わせは下記へ。

ほんとうに長い間ありがとうございました。みな様のご健康を祈ります。